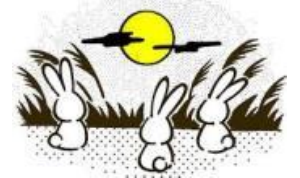


臨床研修センターだより



Vol.19 2015.9.30

～救急部での研修が終わりました！～

当院の研修プログラムは、1年次に救急部を3～4ヶ月ローテートすることが特徴の一つです。

たくさんの症例を経験できる救急部での研修ですが、最初に救急部をローテートした初期研修医は、なぜか「痩せる」という噂も…。

4月のオリエンテーション終了後に救急部へ配属され、7・8月末に終わりを迎えた5人に、春からの数ヶ月を振り返ってもらいました。

ようやく終わった！という感想です。物の置き場所がわからず散らかした4月、右も左もわからずGWを乗り切った5月、だんだん救急車が怖くなくなった6月、



求められることのレベルが高くなり、逆に緊張感が出てきた7・8月と、充実した4ヶ月半でした。叱られ慣れるとかはないです。叱られる時はいつでも辛いです。

(濱田航平)

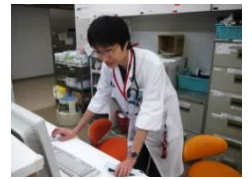
4月からいきなりの救急部ローテートで、最初は何も分からず辛かったですが、上級医の先生方が丁寧に指導して下さったので、最後の方は方針もある程度自分で考え、行動できるように



なりました。縫合や髄液検査などの手技もたくさんすることができました。忙しく時にはツライこともありましたが、4ヶ月半で少しは力がついたら満足しています。

(水野敬介)

初めはカルテの使い方もわからず、診察にも時間がかかり叱られることもしばしばで苦勞しました。休み時間がないほど忙しいことがある分、様々な症例を経験できたこと、エコーを数多くできたことがよかったです。上級医の先生方の指導も熱心で、非常に勉強になった3ヶ月半でした。(田村亮太)



4月に働き始めたころは何も分からなかったですが、時間とともにならぬことが増えていってよかったです。常に時間との勝負で急がなければいけないのは、精神的にしんどかったですし、なかなか昼ご飯を食べられなかったこともつらかったです。でも、とても勉強になりました。ありがとうございました。



(牧田哲幸)

オリエンテーション後、すぐに救急部での勤務が始まり、慣れないことばかりの毎日でした。診察は手際良くできず、静脈路確保などの手技も上手くできず…。様々な面で、ご迷惑をおかけしました。それでも温かく見守って頂き、ご指導を頂いた救急部の先生方には感謝しかありません。4ヶ月半、ありがとうございました。



(村上学)

～女性医師の交流会「女医会」に参加しました～

当院へ見学に来られる医学生とお話していると、「当院は女性医師が少ない」というイメージを持たれている方が少なくありません。確かに今年度の初期研修医は36名中女性5名とやや少ないですが、病院全体を見ると、尊敬すべき素敵な女性の先輩医師が60名余と大勢いらっしゃいます。9月14日(月)当院に勤務する女性医師の交流会が開催され、初期研修医5名が参加しました。

普段抱えている不安、ワークライフバランスの悩みなどを共有し、多様性を「知る」場として、美味しい食事を味わいながら、日頃ゆっくりとお話する機会の少ない先輩方と楽しいひとときを過ごしたようです。



女性医師 29名が参加されました

～「女医会」に参加した初期研修医5名の感想です～

☆改めて先輩女性医師たちの経験談を聞く、貴重な機会となりました。(2年次 大森彩加)

☆おいしいご飯を食べながら、色々なお話が聞けて楽しかったです！(2年次 山下裕加)

☆子育てやキャリアなど普段聞けないお話を伺うことができ、参加して良かったです。(1年次 伊藤純子)

☆女性医師がこんなにたくさんいらっしゃるのだと感動しました。これからも交流を深めていきたいです。(歯科1年次 小野円香)

☆様々な科の先生方とお話することができて、とても勉強になりました。(歯科1年次 東友莉)

～地域医療研修 公立豊岡病院組合～

初期研修医は2年次の1ヶ月、地域医療研修を行います。今年度は、昨年度に引き続き京丹後市立弥栄病院、神戸平成病院、そして新たに公立豊岡病院組合にお世話になっています。今回は、8月に公立村岡病院で研修を行った三好先生からお話を伺いました。

8月に地域医療研修を行った三好です。豊岡病院組合は今年度より新たに加わった研修先で、私が中央市民病院からの初期研修医として初めて研修しました。今回、1ヶ月の研修について紹介させていただきます。

豊岡市は兵庫県但馬地域の中枢都市で、“こうのとり”の野生地として有名な自然豊かな町です。一方で、過疎による少子高齢化・医師不足という側面も抱えています。



豊岡病院組合は、少子高齢かつ医療過疎である地域特性に対し、豊岡病院を基幹病院とし、町ごとに小規模の病院があり、集中と分散を行いながら地域の医療を担っています。



今回私が赴任した村岡病院は、豊岡市からさらに西の香美町村岡にある病院で、香美町における一般外来・入院診療、そして往診が業務の中心となっており、他の地域研修にはない往診に関心を持ち、研修先として選択しました。

業務は3名の上級医とともに外来・入院・往診を行っており、私も午前は病棟、午後は往診という形で研修を行いました。往診では、中央市民病院では体験できない慢性期医療や在宅医療、終末期医療（在宅看取り）などを体験することができ、今までとは違った視点で医療を学ぶ絶好の機会となりました。

往診や在宅に興味のある方、自然が好きな方は、地域医療研修先として是非訪れてみて下さい。

(2年次 三好健太郎)



公立村岡病院の外観です。手前の車で、病院受診が出来ない患者さんのお宅へ向かいます。

往診の風景です。一般診療を行い、状況によって採血もしています。



香美町地域医療巡回講座

公民館へ地元住民の方々を招いて病気の勉強会を行っています。今回は「がんになりにくい生き方」と題し、がんの一時予防についてお話ししました。

休日は観光にでかけました。城崎温泉、玄武洞、出石城、こうのどりの郷公園、香住海岸…などなど。神戸の喧騒から離れてスローライフを過ごすのもアリです。



～胸腔ドレーン挿入講習会～



医療安全管理室主催の胸腔ドレーン挿入講習会
7/28(火)2名、9/3(木)4名の初期研修医
2年次が参加し、呼吸器外科、呼吸器内科、
救急部の先生方にご指導頂きました。

新・臨床研修センタースタッフの「ひとこと」最終回

初めまして。臨床研修センター新スタッフの進藤です。秋の訪れを五感で感じることができるようになり、四季折々の幽玄の美を享受できる「日本」という国の素晴らしさを実感しておられる方も多いと思いますが、皆さん如何お過ごしでしょうか。

さて、私事ではありますが、先日知人が「国会議員用の未公開株」の存在を仄めかし資金を集めていたという事件を起こしました。マスコミ等からパッシングを受けており、皆さんも耳にしたことがあるかもしれません。事実無根であると彼は言いますが、いずれにせよ彼には国会議員として大きく欠けていたものがあるということが露呈された結果となりました。欠けていたもの、それは責任感です。議員、教員、そして我々医師は一般的に「先生」と呼ばれる職業に就いています。これは光栄であることは間違いないですが、同時に大きな責任を伴うことを意味しています。付随する責任を自覚できなければ、権力は人を容易に変えてしまいます。初期研修医の皆さん、医師を志した時や医学部に合格したときの純粋で美しい気持ちを忘れずに、立派な「先生」になって下さいね。

ところで皆さん、ろくろサインという所見をご存知ですか？これは、IT業界人はインタビューを受けるときあたかも「ろくろ」を回しているような手つきになる…というものです。陽性尤度比20を超えるとも言われる驚異的な所見なので(私の写真がまさにろくろサインです)是非今後の日常診療に役立ててみて下さい。

(総合診療科 進藤達哉)

